

世界の農業機械・資材トレンド

ヨーロッパの農機実用テストの権威、ドイツ「profi」誌に掲載された世界の農機の最新情報

Chaser bin floats on eight wheels オーストラリア

8つの車輪で伴走する貯蔵車



容量50tの伴走式貯蔵車であるロンググリーチ・トラムライナーは追加車輪を設置することで、ニューサウスウェールズ州の農業経営者の憂鬱を解消した。今ではどんな天候の影響を受けやすい放牧地でも慎重に走るだけで、収穫時の生産性を維持している。

モリー市ビーウッドのゲリット・カーステン氏は、昨年放牧地が水浸しになり、3つの農場で小麦の収穫作業中に立ち往生した。そこで、オステック・マニユファクチャリング社にミシユラン製ハイフローテーシヨンタイヤを搭載した8輪のロンググリーチ型トラムトラックを注文した。

「すべての放牧地において幅12mのトラムライン方式を採用している。ヘッダーからサイロへと確実に穀物を運搬し、t当たりの運搬コストを最小限にしなくちゃ」と説明する。

先のオランダの作業機メーカーは同氏の農業トラムトラックを改良し、同州北西部の敷力所で夏と冬の両作物において播種と収穫を行なった。同氏は最初の50t型を設計、製作するにあたり、重要な要素を組み込んだ。

「我々は迅速かつ支障なく積み込む必要があるため、オステック社のジョン・シオン氏とグレン・ピコン氏に浮遊性能を向上させるために車輪を追加して、現在の3軸型を改造してもらおうと依頼した」と話す。

8輪式50tロンググリーチ型は、今年初めにグンディウインディイからモリー間で試験走行を行ない、グレイソルガムを1200ha分別り取る際に黒色土壌で平均4t/haを記録した。同機の革新的な1.5m幅の搬送ベルトにより、トラムラインを保って2〜3分当たり10tの穀物排出が可能になった。

「追加の車輪軸とフローテーシヨンタイヤを搭載することは同時に、牽引トラクタの馬力が10馬力/tではなく、わずか5馬力/tで間に合うことを意味し、これも大きな省力化になっている」とピコン氏は説明した。



50tのオステック製貯蔵車は12m幅の3つのヘッダーの処理量に遅れずに伴走し、4t/haのソルガムを収穫する。

More kit aimed at small scale farmers 南アフリカ

小規模農家向け製品が拡充へ



ジュミル (Jumil) 社製JM390ハーベスタが最近南アフリカの市場に初投入された。同機は最小出力55kW/74馬力のトラクタで牽引するように設計され、ブラジルで製造された。

これは何十年にもわたり続いているテーマにもとづいた最新の機種である。実際、ハリー・ファアガソンでさえもTE20に適合したものを製造し、50年前にデビッド・ブラウンはJF社がデンマークで行なったように、英国で同様のコンセプトを売り込んだ。今回の販売価格は小規模のアフリカの農家が自前のハーベスタを購入することを可能にし、これまで重要な要素であったコントラクターに全く頼らなくてもよくなったことを意味している。



Jumil社製コンバインはクワズール・ナタール州ミッドランドのセブンオークス付近で開催されたチャートウェルファームで実演され、ランディニ・グローバルファーム95型トラクタに適合すると実証された。



コンバインの右側の固定車輪はトラクタの後輪および左側の車輪キャスターの内側にあるので、この小型機がトラクタと一緒に動くことが可能になっている。グレンタンクの容量は1,300ℓで、油圧式の屈折可能な排出オーガは約1分でタンクを空にする。



オプションのグレンヘッダは刈取幅が2mで、ソルガム、大豆、小麦またはコメを収穫するのに理想的な寸法が計算されている。

スペースに関して説明すると、2条のトウモロコシ収穫用ヘッダーが800mm間隔で配置されているが、450mmから900mmの条間に対応する。軸流式の脱穀部は最小の損傷程度で穀物を収穫し、送風機能がついた振動分離システムを用いてきれいな選別を実現する。

収穫能力は通常の条件で2.5t/hであり、これは1950年代後半の初代自走式マッセイ・ハリス726モデルと同じ能力である。



Science wins over courts

米国

科学が司法判断を覆す

しかし現在、ラウンドアップ・レディー・アルファルファの種子に関する禁止令が撤廃され、ヘコックス氏は早い段階で除草し、混じりけのない収穫作業を実現することができた。「雑草に煩わされずにアルファルファが乾燥している時に梱包できるんだよ」と、ヘコックス氏は説明する。



ラウンドアップ・レディー・アルファルファの種子が市場に戻ってきた事実を米国の多くの農業経営者が歓迎している。

モンサント社が米国農務省（USDA）の承認を受けたジェニユイティ・ラウンドアップ・レディー・アルファルファの種子を発売してから1年もたたずに当該商品を市場から引き上げたが、このたび再度市場に戻ってきた。

アルファルファ圃場での雑草を減少させることを可能にする先進技術を農家に提供することに関しては、このアルファルファ種に関する議論は当初司法制度の中で引き起こされた。この論争はUSDA動物検疫局がラウンドアップ・レディー・アルファルファに対して再度、規制対象外の認定を与える決定を行なった2011年の1月27日まで続いた。この決定はその後2月3日付の連邦官報で公表され正式決定となった。この決定を歓迎した農業経営者の1人がジョン・ヘコックス氏であり、同氏はネブラスカ州で肉牛肥育場向けなどの業務用干し草を栽培している。かつて2006年に同氏はラウンドアップ・レディー・アルファルファを作付けした160haの圃場を有していた。その後禁止命令が完全実施された影響をまともに受けて、2006年から今年まで同氏はラウンドアップ・レディー・アルファルファで経験したレベルと同じくらい効果的に雑草を管理できる方法を模索してきた。



モンサント社が米国農務省（USDA）の承認を受けたジェニユイティ・ラウンドアップ・レディー・アルファルファの種子を発売してから1年もたたずに当該商品を市場から引き上げたが、このたび再度市場に戻ってきた。

Slurry injector spreads its wings

オランダ

スラリーインジェクタが翼を広げる



Schouten社のスパイダーは供給パイプ機構またはスラリータンカーに直接搭載する両方の方法で利用可能である。ディスクの直径は35cmであり、個別のインジェクタユニットはゴム製のサスペンションとともにパラレルアームに設置されている。

容量を縮小できた主な理由は合成素材のディスクホルダーの採用と、同機のために設計されたフレームによるという。このインジェクタは供給パイプ型またはスラリータンカー上に搭載する形で供給されている。



スラリーを取り扱う機器で最も知られるオランダの機械メーカー、シャウテン（Schouten）社は12m幅のスライダーインジェクタを発売し、同社によると同機の重量はわずか2900kg（リフトフレーム除く）であり、これは競合製品の重量に比べて極めて軽いと説明する。